

<ともに過ごす楽しさ、ともに学ぶ喜びのある学校>



瑞穂小学校だより

発行 京丹波町立瑞穂小学校 令和2年7月31日 No.5
 京丹波町橋爪松山118番地 TEL: 0771-86-0009
 URL: <http://www.kyoto-be.ne.jp/mizuho-es/cms>

節目で振り返り、次の自分の生活に生かす

今年は梅雨明けも例年より遅く、雨の日が続く7月後半でした。もうそろそろ雨は一休みしてもらいたい。という思いになるところですが、校舎前の花壇では、ホウセンカ、サルビア、マリーゴールドなど、夏を代表するような花が水のめぐみをうけて生き生きと咲いています。例年とは違う生活が続いた第1学期ですが、本日、終業式を迎えました。

保護者や地域の皆様には、学校休業中の家庭や地域での生活、また学校再開後の登下校の見守りや教育活動への御理解・御協力等、様々な面でお力添えいただき、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。



さて、1学期の始業式・入学式で子ども達に「つながる力・挑戦する力・伝える力」の大切にしたい3つの力について話をしました。「仲良くつながるために、気持ちのよいあいさつをすること」「挑戦したいことを見つけて実践し、前進すること」「人に自分の思いや考えを伝えること」の3つです。この1学期を振り返ってみてどうだったでしょうか。

子ども達は自分で自信をもって「できた」と言うことができるでしょうか。節目で立ち止まって考えてみることは大事なことです。夏休みに入る前に、是非一度御家庭でもお子様と一緒に振り返り、夏休みの生活に生かしたり、2学期につないだりできるよう声かけをお願いします。

1学期を振り返り、2学期につながる夏休みの生活とするために、大切にしてもらいたいことを今日の終業式で子ども達に話しました。

「あいさつ」の合い言葉

- あ・・・あいさつ(家族や友達、地域の方へ心に届く気持ちのよいあいさつ)
- い・・・いのち(自分のいのちは自分で守る。他人のいのちも大切に作る行動)
- う・・・うんどう(コロナウイルス感染防止のためにも、適度な運動で体力作り)
- え・・・えがお(楽しみを見つけて笑いで免疫力アップ)
- お・・・おてつだい(お手伝いで誰かの役に立つ喜びを実感、自分のよさを発見)

夏休み中も引き続き新しい生活様式や熱中症対策を意識しながらの毎日になるかと思いますが、「あいさつ」の合い言葉を意識して、自分で考え、行動できる最適の機会でもあります。今年度の夏休みは17日間と大変短くなっていますが、子ども達にとって有意義な休みが過ごせますようよろしくお願いいたします。

8月18日(火)には、元気な子ども達の姿に会えることを楽しみにしています。

校長 入江 貴美子

8月の行事予定

日	曜日	主な行事	日	曜日	主な行事
1	土	夏季休業開始(～17日)	17	月	
2	日		18	火	第2学期始業式 通学班会 短縮3校時
3	月		19	水	給食開始 短縮4校時
4	火	個別懇談(午前・午後)	20	木	短縮4校時
5	水		21	金	通常校時開始
6	木	個別懇談(午前)	22	土	
7	金		23	日	
8	土		24	月	ALT
9	日		25	火	
10	月	山の日 学校閉鎖日	26	水	5年自然体験学習説明会
11	火	学校閉鎖日	27	木	
12	水	学校閉鎖日	28	金	P T A本部役員会
13	木	学校閉鎖日	29	土	
14	金	学校閉鎖日	30	日	
15	土		31	月	ALT
16	日				

9月の予定 PICK UP

- 3日(木)なかよし集会
- 4日(金)P T A運営委員会
- 8日(火)瑞穂参観デー
- 19日(土)運動会
- 23日(火)振替休業日

<夏休み中の連絡について>
 事故や怪我、病気など緊急の連絡は下記にしてください。
 電話 86-0009 CATV 386-0009
 携帯電話 080-8349-0020

2学期始業式 8月18日(火)

8月18日(火)始業式 通常通りの方法と時間で登校します。 下校時刻11:45
 ・下校バス 12:00 質美線、猪鼻戸津川線、小野鎌谷線(井尻・八田方面、鎌谷方面)
 12:15 JR路線

<朝のお話会>

今年度初めての読み聞かせ

7月16日(木)今年度初めての朝のお話会をしました。今年度も地域教育協議会の読書支援部会の方にお世話になります。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じての実施です。子どもたちは毎回楽しみにしている活動なので、実施できたことは大変うれしいです。2学期からは月2回の実施となります。



<新しい生活様式での学校生活>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、新しい生活様式を取り入れた学校生活を送っています。

みんながさせられている生活から、自ら考えて工夫する生活になってきました。児童委員会の取組として、本部委員会が距離の感覚がとりやすい掲示物を貼ったり、放送委員会が朝の放送等で注意喚起を促したり、工夫して活動しています。



<これだけの間隔をとろう>